



何事も面白がって24年

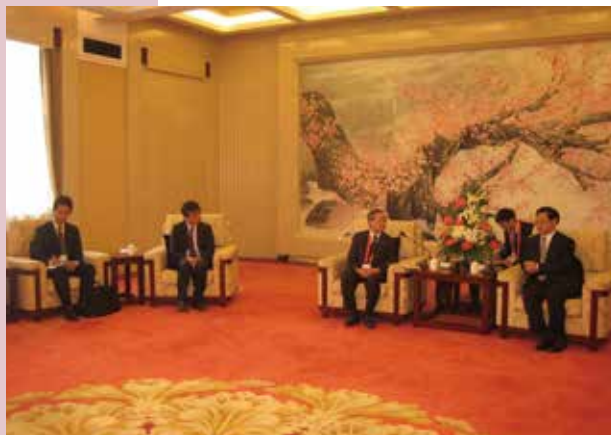
小牧 兼太郎 KOMAKI Kentaro

自治行政局住民制度課マイナンバー制度支援室長

これまでのキャリアをふりかえって

私が就職した2001年は、就職氷河期真っただ中にありました。激動する国際情勢や人口減少・少子高齢化などの社会経済構造の変化によって国全体としての活力が少しずつ失われてきており、20年以上にわたって、この状況を何とか持ち直せないか試行錯誤を繰り返してきた世代だと思います。

このような社会情勢にあっても、時代に即した形でより良い行政サービスを提供するためには、進展著しいデジタル技術を徹底活用することも一つの方向性と感じています。一方、これまでにない視点で取り組む以上、よく語られがちな「前例踏襲」、「事なかれ主義」が入り込む余地はなく、なかなか大変ではありますが、何事も面白がって「どうあるべきか」を考え続ける日々です。これからも、国や地方の発展に何か一つでも貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。



鳥取県と姉妹関係にある中国吉林省との交流協議。左端が筆者



財政課有志とともに鳥取県久松山にて。中央が筆者



財政局有志とともに北九州市足立山にて。中央が筆者

2023～現在 自治行政局住民制度課マイナンバー制度支援室長

希望する国民がマイナンバーカードを円滑に取得できるような環境整備に取り組むとともに、カードの海外継続利用、マイナ保険証の本格運用、マイナ免許証の導入やカードのスマホ搭載に向けた調整など、マイナンバーカードの更なる利便性向上に向けた取り組みを進めています。

2021～2023 自治行政局地域情報化企画室長・マイナポイント施策推進室長

デジタル社会において、地方自治体の業務効率化と住民の利便性向上を両立させる自治体DXの推進やこれを支えるデジタル人材の確保に取り組みました。2021年度の経済対策として実施されたマイナポイント第2弾を担当し、国民のマイナンバーカード保有率も大きく向上しました。

2018～2021 北九州市財政局長

人口減少と財政再建、市のイメージアップに苦心されてきた市長をお支えし、宿泊税の導入や公共投資上限ルールの設定などによって捻出した財源を、将来への投資に振り向けることに力を尽くしました。我が街を自らの手で盛り立てようとする指定都市職員の矜持と実行力に深く感じ入りました。

2016～2018 自治行政局住民制度課理事官

2016年1月からマイナンバーカードの発行がスタートし、カードの普及促進や利便性向上に取り組みました。デジタル社会の基盤であるマイナンバーカードが我が国に何とか根付くよう、制度の構築・システムの運用・現場（市区町村）のサポート・対外的な対応など、寝食も忘れて対応しました。

2013～2016 大臣官房秘書課副大臣秘書官(2013～2014) 自治行政局行政経営支援室課長補佐(2014～2015) 同市町村課課長補佐(2015～2016)

政治と行政の結節点である政務にお仕えできたことは貴重な経験でした。人口減少社会にあっても、地方自治体が持続可能な形で行政サービスを提供するための業務改革のあり方や窓口型地方独法創設に向けた議論、連携中枢都市圏構想の推進など将来を見据えた施策に取り組みました。

2007～2013 鳥取県企画部協働連携推進課長(2007～2009) 同文化観光局交流推進課長(2009～2011) 同総務部財政課長(2011～2013)

「人生何事も経験。その経験が今後に生きてくる。」知事からいただいた言葉です。NPO支援や環日本海国際交流の推進、定期貨客船の誘致、人口最小県ならではの知恵と工夫を重ねた予算編成など、着任前には想像もできない刺激的な業務の連続でしたが、明るいよき同僚達に恵まれ、やりがいのある毎日でした。

2005～2007 自治財政局調整課(2005～2006) 同公営企業課(2006～2007)

三位一体改革における国庫補助負担金改革、国直轄事業負担金の見直し、道路特定財源改革に向けた議論や政策金融改革に伴う地方共同法人（地方公営企業等金融機構、現地方公共団体金融機構）の設立など、2000年代初頭の様々な構造改革に携わりました。

2001～2003 富山県経営企画部市町村課

そわそわした学生気分が抜けない新人に対して、時に厳しく、時に暖かく仕事の進め方をご指導いただきました。平成の市町村合併に向けた動きが急速に進む中で、課長のお供ではありますが、県内の町村長から直接お話を伺う機会も多く、新鮮な経験でした。